

南条殿御返事

弘安三年九月

五九歳

はくまいひとふくろ、いも一袋だ芋給駄び了んぬ。抑そもそも故南なん条でう郎の七五らう郎ご郎らう郎どの郎の事、
いままではゆめかゆめか、まぼろしかまぼろしかとうたがいて、そらごと虚の言のみ思をもひ
て候へば、此の御ふみにもあそばされて候。さてはまことかまことかと、はじめて始うた
が思いい思できたりて候。